

朝日（あさひ）遺跡：清須市から名古屋市西区にかけて所在する東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。外敵に備えて集落の周りに環濠をめぐらし、防御用の柵が設けられていた。

浄水北小学校で出前授業を実施しました

5月に続き浄水北小学校で出前授業を実施しました。今回は室町時代から戦国時代の単元です。室町時代については、清洲城下町（きよすじょうかまち）遺跡から出土した天目茶碗（てんもくぢゃわん）や茶入れ（ちゃいれ）などを手にとり、茶の湯の文化のことを教科書と照らし合わせて学習していきました。戦国時代は清洲城下町遺跡や石座神社（いわくらじんじゃ）遺跡から出土した鉄製の鏃（やじり）や火縄銃（ひなわじゅう）の弾を見て、教科書や資料集にある「長篠合戦屏風（ながしのかっせんびょうぶ）」の解説に目を輝かせて聞き入っていました。

当センターは遺跡から出土した遺物を使った出前授業を実施しています。問い合わせは下記の連絡先にしてください。連絡は平日の9時から17時までの間にお願いします。

連絡先 愛知県埋蔵文化財調査センター 電話0567-67-4164

調査研究課 担当 岡田

清洲城下町（きよすじょうかまち）遺跡：清須市に所在する。中世から戦国時代、江戸時代初期の清須城を中心とした城下町の遺跡。江戸時代初期以降は現在の清須市の中心に宿場町が展開した。

天目茶碗（てんもくぢゃわん）：中国から伝わった茶をたしなむためのお茶碗。

茶入れ（ちゃいれ）：抹茶（まっちゃ）のための茶の葉をすって粉状にしたものを入れるための小さな壺状の器。

石座神社（いわくらじんじゃ）遺跡：新城市に所在。弥生時代から戦国時代の遺跡で、長篠合戦（ながしのかっせん）で用いられた火縄銃（ひなわじゅう）の弾、5発が出土している。

火縄銃（ひなわじゅう）：天文12（1543）年、ポルトガル人の手によってもたらされた。火薬と弾を銃口からこめる、先込め（さきごめ）式で火のついた縄で火薬に点火した。

長篠合戦屏風（ながしのかっせんびょうぶ）：天正3（1575）年に現在の新城市長篠で行われた織田・徳川連合軍と武田軍との戦い。本格的に火縄銃が使用され、織田・徳川連合軍が火縄銃を用いて武田軍の騎馬隊（きばたい）を撃破した。その様子を屏風に描いたもの。合戦に参加した後の犬山城主の成瀬氏が書かせたもの。



室町時代の解説



室町時代の遺物に触れる



戦国時代についての発表

弥富北中学校の生徒さんが職場体験に来ました

調査研究課の岡田です。

6月19日から21日まで、弥富北中学校の生徒、男子2名、女子2名が職場体験に来ました。大変元気で意欲的に取り組んでくれました。



開講式 所長からの挨拶



館内見学 朝日遺跡の貝層の説明を聴きます。



木器や骨角器の遺物保管について学んでいます。こわごわ出土した頭蓋骨を覗い



蔵書の目録をつくっています。

ています。



遺物の借用依頼がありました。倉庫のどのコンテナにあるのか台帳や報告書で調べています。

「ここだ。この箱の中にあるよ。」



水漬してあった木製品を処理室に運びます。

最終日。訪問客に展示物の解説を行って

います（訪問客は当センターの職員です。

3日間の体験が試されます）。

朝日遺跡の国の重要文化財に指定されている弥生土器が返却されました

平成30年3月10日から5月27日まで、兵庫陶芸美術館で開催されていた『弥生の美 - 土器に宿る造形と意匠-』に貸し出されていた国指定の重要文化財 朝日（あさひ）遺跡出土品、弥生土器10点が返却されました。展覧会には5922名もの多くの方が観覧されました。



返却風景



貸し出された重要文化財の一部

朝日（あさひ）遺跡 清須市から名古屋市にかけて広がる弥生時代の集落遺跡で東海地方、最大規模を誇る。国指定の重要文化財 朝日遺跡出土品：朝日遺跡から出土した遺物の中で、特に歴史的、美術的に価値がある弥生土器を始めとする2028点の遺物が平成24年に国指定の重要文化財に指定されている。

弥富中学校の生徒さんが職場体験に来ました

調査研究課の岡田です。

6月12日から14日まで、弥富市立弥富中学校の生徒、男子3名が職場体験に来ました。仕事をしながら専門的な知識も学んでもらいました。



開講式 所長からの挨拶



木製品の保存について説明を受けます



整理作業の様子を見学しています



返却遺物の収納 とても重いので2人で棚に戻します



朝日遺跡から採取してきた貝層の洗浄



骨片と土器片が見つかりました



出土遺物の実測



正確に方眼紙に写し取っていきます

朝日遺跡：清須市から名古屋市西区にかけて所在する弥生時代の東海地方最大級の集落遺跡

愛知県陶磁美術館の学芸員の方が資料の貸出のため来館されました

調査研究課の尾崎です。

6月13日（水曜日）に愛知県陶磁美術館の学芸員の方が資料の貸出のため来館されました。貸出した資料は**志賀公園（しがこうえん）遺跡（名古屋市北区）出土の須恵器15点**です。

これら資料は6月30日（土曜日）から8月26日（日曜日）まで愛知県陶磁美術館で開催される企画展『**知られざる古代の名陶猿投窯**』で展示されます。ぜひ足をお運びください。

用語解説

志賀公園遺跡：名古屋市北区に位置する弥生時代中期～近世にかけての遺跡。5世紀前半に遡る須恵器が多く出土している。



貸出の様子

志賀公園遺跡出土須恵器鍋

十四山中学校の生徒さんが職場体験に来ました

調査研究課の岡田です。

6月は弥富市内中学校の生徒のみなさんが職場体験に来る季節です。今年も十四山中学校をスタートに職場体験が始まりました。

十四山中学校の職場体験は6月4日から6日までで、男子2名が当センターの仕事を体験しました。最後まで責任感をもって仕事をすることができました。



開講式 所長からの挨拶



施設見学で遺物の説明を受けています



展示遺物の説明を聞きノートに記録しています



蔵書のリストを作っています



遺物の収納作業を慎重に行っています



甕の接合復元を行っています





3日間一生懸命取り組んでくれました。この体験を将来に役立ててもらえると嬉しいです。

日進市の学芸員の方が資料の実見のため来館されました

調査研究課の尾崎です。

6月12日（火曜日）に日進市の学芸員の方が資料の実見に来られました。実見された資料は**三ヶ所**（さんかしよ）**遺跡**（日進市浅田町）出土の**鳥摘蓋**（とりつまみぶた）です。

下に写真を掲載しました。線刻によって鳥の羽が表現されていることが判ります。破片資料のため判別しにくいですが、鳥の頸部であると考えられます。

鳥摘蓋は全国でわずか15例しか確認されていません（註1）。**猿投窯折戸**（さなげようおりど）**地区**のお膝元であるこの遺跡ならではの出土品と言えます。

（註1）全国での出土例は2008年の報告書（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第140集『三ヶ所遺跡・西田面遺跡』）刊行時の数です。

用語解説

三ヶ所（さんかしよ）**遺跡**：日進市浅田町に位置する古代～中世の集落遺跡である。焼成不良の古代陶器類、窯道具が出土することから、**古代陶器類の集荷場**と考えられている。

鳥摘蓋（とりつまみぶた）：鳥の頭を模した古代陶器。窯跡、集落遺跡で見つかることは極端に少なく、特殊品であると考えられている。

猿投窯（さなげよう）：古墳時代から中世まで猿投山西南麓の丘陵地帯で展開した窯跡群。



実見の様子

三ヶ所遺跡出土鳥摘蓋破片

和歌山県立紀伊風土記の丘の方が写真撮影に来られました

調査研究課の岡田です。

5月31日に和歌山県立紀伊風土記の丘の方が遺物の写真撮影に来られました。撮影された遺物は松崎（まつぎき）遺跡（東海市）から出土した製塩土器、釣針などです。写真は今年の9月に開かれる特別展「黒潮の海に糧をもとめて—古墳時代の海の民とその社会—」の図録に使われます。

学芸員さんによると、紀伊半島西岸の海浜集落で発見されている遺物の中には、同じ形態のものが三浦半島（神奈川県）や房総半島（千葉県）でも見つかったそうです。黒潮を利用し、相互に交流があったようです。

特別展「黒潮の海に糧をもとめて—古墳時代の海の民とその社会—」は和歌山県立紀伊風土記の丘で9月30日（土曜日）から12月2日（日曜日）まで開かれます。